



諫早森林環境教育プロジェクト
～「いさはや九電みらいの森」における環境教育～

- 〔主催〕 公益財団法人九電みらい財団
〔連携〕 国立諫早青少年自然の家
〔協力〕 長崎県森林ボランティア支援センター
〔期日〕 令和5年5月23日(火) 長田小学校 5年生
 令和5年5月30日(火) 千綿小学校 4・5年生
 令和5年6月5日(月) 真津山小学校 4年生
 令和5年6月6日(火) 真津山小学校 4年生
 令和5年10月20日(金) 明倫小学校 4年生
 令和5年11月21日(火) 鷹島小学校 5・6年生(インフルエンザ学級閉鎖のため中止)
 令和5年11月22日(水) 森山西小学校 4年生
〔会場〕 ・国立諫早青少年自然の家「ハウスの森」「いこいの散策路」
 ・九電みらいの森
〔担当職〕 小野 栄策、中里 文彦、小柳 響生、松尾 天仁、東 宏子、高山 雄也、馬場 優、黒崎 碧

1)趣旨

次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とします。

2)SDGsで目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 五感を使って、自然と触れ合う体験活動を通して、自然の持つ様々な表情を楽しみ。普段気づかない発見や自然とのつながりに気づく。 目標13 気候変動に具体的な対策を 森林を守り、正しい手入れをしていくために、どのような取り組みをしているか、私たちの生活でどのようなことができるか考える。
---	---	---

3)目標

九州電力と長崎県諫早市が協定を締結し、森づくりに取り組んでいる「いさはや九電みらいの森」において、講話を通して地球温暖化の現状や森の役割等について学び、植林・育林体験を通して講話で学んだことを実感し、理解を深めてもらうことをめざす。

4)プログラム

森林環境教育 実施内容 晴天時プログラム【写真①】 雨天時プログラム【写真②】	
10:00～10:10	オリエンテーション(挨拶、講師紹介、注意喚起)
10:10～10:30	講話「森の役割を知ろう」(地球温暖化、森の役割)
10:30～11:30	森林オリエンテーリング
11:30～12:10	昼食
12:10～13:20	森のアクティビティ(植林、育林、実験など)
13:20～13:30	まとめ(振り返り、挨拶)

5)事業展開

①晴天時プログラム



ハウスの森にて「森の役割」について講義を行い、地球温暖化の現状や森の役割について学びを深めた。森の散策では、動物の生活の痕跡や、成熟した森や主伐された森、防火帯を実際に目で見ることで、森の成長過程や地域に根差した森の役割を学んだ。森林観察では、いさはや九電みらいの森に植生する様々な樹種を観察し、多様な植物に触れることで、森に対する興味関心を高めた。育林体験では、森を管理することの重要性を認識してもらうために、育林作業の一つ「下草刈り」を行った。

②雨天時プログラム



雨天時は、室内プログラムに変更して行った。パソコンとゴーグルを使ったVR体験(仮想現実)では、実際に木を切る疑似体験ができた。近くの工場から出た端材を利用したクラフト活動では、端材、木の実、枝などを組み合わせて個性豊かな作品を作り上げた。野外での活動でできなくて残念だったが、学校では味わえない体験を行うことができた。

6)感想

- ・森林体験で森の木のことをたくさん教えてくださいました。名前は聞いても触ったことのない花や木がたくさんありました。
- ・いろいろな植物の名前を教えてくださいました。カラスウリやムベが食べられることを知りました。
- ・ヤッホー台で本当に声が聞こえてびっくりしました。以前より、森林を大切する気持ちが育ちました。

7)成果と課題

①成果

- ・講話、森林散策、観察体験、育林体験とプログラムの流れが確立し、回を重ねるごとに体験活動の内容も充実してきた。
- ・九電みらい財団、森林ボランティアセンターと連携して事業を進めることができた。

②課題

- ・環境教育につながる雨天時プログラムの充実に努める。
- ・多くの参加団体が利用でき、かつ指導者が変わっても持続して行えるパッケージプランを作り上げるとともに、積極的に広報活動を行っていく必要がある。